

第4話
(最終回)

農ガール

タカパン奮闘記！

たか い あや こ
高井 文子さん



タカパン奮闘記をご愛読いただきありがとうございます。自然農法76号より連載を始め、いよいよ最終回となりました。就農1年目からの様子やタカパンとダーナについて紹介してきましたが、この記事が掲載される時には就農3年目が終わろうとしています。

◆
【研修の感想や学びの実践、それを発展させたタカパンの考えと今後の展望について】

タカパンが答えてくれました。「自然農法センターでの研修に入る前年に、2軒の野菜農家で4か月ずつ合計8か月の実践的な研修をしましたが、沢山の疑問が生まれました。自然農法センターでは、疑問を口にすれば、一緒に考えてくれる職員や同期の研修生がいます。そして、研修生のための小さな菜園で品種の比較や就農してから実施したい事を試してみることができません。さらに、自然農法センターでこれまで得られた実際のデータや、多くの関係する農家や研究者の事例を元に「それはこういうことなんじゃないかな」と、貴重な意見をもらうことができます。そんな風に様々な「？」（ハテナ）な現象を自分の中で整理し、考える時の、基礎を築くことができました」

「就農してから2年、毎日が試行錯誤の連続で、次々疑問が生まれ、予想外なことが起きます。うまくいかないことも

「ほほう、次はそう来たか。じゃあこうしてみようか」と面白がるようになってたのも、自然農法センターで、事象を捉える考え方の基礎を築けたからだと思います」

続けて今後の展望も答えてくれました。「今向き合っているのは、景色以外が条件が良いとは言えないじゃじゃ馬のような畑ですが、楽しみながら気立ての良い畑を育て、美味しい野菜とお米、麦、大豆をつくり、今後は、果樹も育て、馬と山羊と鶏を仲間に加え、近所の方から馬耕を教わり、田んぼや畑の仲間を増やしたいと、夢を膨らませています」

当センターの研修担当である筆者にとつて、とても嬉しくなる答えをいただきました。また、とても前向きな考え方で頼もしく思いました。

【就農して考えが変わった事は？】

「前述のとおり、常に試行錯誤しているので、日々考えが変わっています。しかし、考え方の基盤や、自分が作りたい農園や作りたい世界の姿は変わっていません」とはつきりした口調で話してくれました。

確かに、良かれと思った栽培方法も失敗してしまうと自信を無くしてしまいます。しかし、その失敗を分析し、気持ちを切り替えて前向きになる事が成功に繋がる理由なのでしょう。筆者も見習うべ



きことだと思いました。また、自分たちの望む農園の世界観を、変わらずに持ち続けることで、真つすぐな道のみを見ることができているのでしょうか。変わることと変わらないことが共存し生活のエネルギーとなっているのだなあと感じました。

【研修レポートでは新規就農計画をまとめましたが、計画通りいきましたか?】

タカパンは「夏短く獣害多い痩せ地で自然農法畑を始めるシミュレーション」という題目で研修レポートを作成しました。その内容は、土を育てる、作物を育てる、生計を立てる、の大きく3つに分かれていました。研修時代に就農地の土壌を分析して、作物が育ちやすい土壌に改良する計画を立てたり、就農してから3年目までの作物の作付け計画を立てたり、作業内容から労働時間や資材費を算出して収支計画を立てていました。筆者はその内容を知っていたので、このような質問を試みたのです。

「レポートで計画した内容とは全く違う進み方です。自身の計画性の無さといえますか、適当さといえましようか。なぜって、実際

に畑と向き合うと、予想外なことが次々起こるのです(笑)」

「就農1年目に、レポートの作付け計画どおり畝を作ったら一夜にして畑が水没し、きれいな空が映る2反の巨大な池になつていて、半月かけて水路工事をするなんて(泣)」

「二年目の秋、翌年の田んぼ予定畑にレンゲを播いておいたら、とっても親切なお隣さんがついでに我が家のその畑をレンゲの芽生えごとトラクターで耕耘してくれてしまうなんて……(泣笑)」

面白おかしく話をしてくれました。

こんなことがたくさんあったので気持ちの切り替えが上手になつたのかもしれないが、予想外なことが起きてもそのトラブルを分かち合えるダーナの存在も大きいことでしょう。計画通りにはいかなくても、計画を立てたことで全体を見ることができ、トラブルに対応することができたのかもしれないですね。筆者は思いました。

【計画に無くても舞い込む良い話】

こちらは、ダーナが話してくれました。

「自給的な暮らしという基盤が



みんなで田植え



思いが形になった
ブルーベリー
果樹のある豊かさを
実感

タカパンが研修生
時代に作成した3
年分の栽培計画の
一部



2018年に水田から転換した畑

作型	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
1年目	春	サトイモ	クワシサイ	白花生	粟豆	虎豆	ホオズキ	トウガラシ	オクラ	モロイヤシヨマ	クワシサイ	サトイモ	ゴホウ	堆肥	
	秋	緑肥	緑肥	緑肥	緑肥	緑肥	緑肥	緑肥	緑肥	緑肥	緑肥	緑肥	緑肥	緑肥	堆肥
2年目	春	白花生	粟豆	虎豆	ホオズキ	ホオズキ	トウガラシ	オクラ	モロイヤシヨマ	クワシサイ	サトイモ	ゴホウ	堆肥		
	秋	緑肥	緑肥	緑肥	緑肥	緑肥	緑肥	緑肥	緑肥	緑肥	緑肥	緑肥	緑肥	緑肥	堆肥
3年目	春	ホオズキ	トウガラシ	オクラ	モロイヤシヨマ	ゴホウ	クワシサイ	サトイモ	白花生	粟豆	虎豆	堆肥			
	秋	緑肥	緑肥	緑肥	緑肥	緑肥	緑肥	緑肥	緑肥	緑肥	緑肥	緑肥	緑肥	緑肥	堆肥

あって、田畑を耕し、農業を生涯としてやっていきたいと考えていましたので、ゆくゆくは果樹を取り入れたいと考えていました。すると、ブルーベリー園をしていた友人が廃業することになり、木を譲ってもらえる話が舞い込んできました」

「ブルーベリーは農薬をかけなくても収穫までできる点、稲が忙しい時期が終わってから収穫を迎えることができる点が始めるきっかけになりました」

「実際、ブルーベリーを始めると摘花・摘果の手間や気温の高さから収穫時期が早まったりと予想外のことも起こり、米も野菜も手が回らず大変でしたが、お客様に喜んでいただいて、私達も果樹がある豊かさを感ずることができました」

「ブルーベリー園が家から離れているので、今後は少しずつ木を移植しながらブルーベリーだけでなく色々なベリー類のある園、その他果樹も増やして行きたいと考えています」

就農して3年、タカパンとダーナが話してくれた農園の姿が「思い」となって、周りの人々を動かし、良い話が舞い込

んできたのだと思います。夢は口に出せば叶うといいますが、本当にそうなのですね！

【生産者として消費者に伝えたい事は？】

「自身も生産者であると同時に消費者です。一消費者としては、日々の買い物は、どんな世界に住みたいか、どんな世界を作りたいか、の最も身近な投票だと思って商品を選択するようにしています」「一生産者としては、つくりたい世界に近づけるような栽培、販売をしたいと考えています」

タカパンは生産者の側からも消費者の側からも考えていました。

【これから就農を考えている方々へ】

「前述のように試行錯誤中で軌道に乗ってもいけないので偉そうにアドバイスなどできません。すみません」と、とても謙虚なタカパンの答えでした。そして続きます「でも、就農時には希望地に足を運び、行政や農家さん方と話をして色々な情報を得ていました。家を借りる時

思いを込めたネーミングの
「山のカエル米」



パッケージを工夫した
ボールズッキーニ



2018年の野菜セット

オーガニックファーム チュトワ
〒409-1501
山梨県北杜市大泉町西井出 4571-1
HP <http://chutowa.wixsite.com/chutowa>
FB <https://ja-jp.facebook.com/chutowa/>
Mail chutowa210@gmail.com



「ちょっと宣伝ですが、チュトワ（私たちの農園）でも自給を始めた人の応援をしたいと思っっているので、大豆トラスト、小麦トラスト※はこれから行おうとしている事です」とダーナのお話です。

【どうしたら農業が明るくなる
と考えますか?】
「継がなくてはいけない農業」が「新規参入したい農業」になり、すでに農業は明るくなってきているように感じます」「もつと家庭菜園と農業の垣根が低くなり、誰でも気軽に自給程度の野菜づくりや米づくりができるようになることを期待しています」とタカパンのお話です。

も問題がありました。話し合いを通じて信頼を獲得し、問題も研修レポートで図にして作付計画をしっかりと立てていたし、土壌分析して極端に少なかつたリン酸をどのように施用するか考えていました」
上手いかななくても計画や人脈は大事。つまり、準備することが重要ってことですね。

※市民自ら生産者と共に国産大豆や国産小麦を作り、自給率をあげていこうと自給運動を進めること

「理想の農園に向かってがんばれ！タカパン、ダーナ」
(研修課 千嶋英明)

◆ 新規就農者の苦労は、①農地の確保（71・6%）、②資金の確保（71・2%）、③営農技術の習得（54・0%）、④住宅の確保（25・5%）（平成28年度一般社団法人全国農業会議所全国新規就農相談センター）だそうです。特に、有機農業を志すと変わり者とか雑草を生やし放題にするといったイメージが強いようで、農地の確保が難しく、確保ができて、耕作放棄地や日の当たらない場所など、営農に不利な圃場が多いようです。また、技術や知識があっても、販売がうまくいかずに就農給付金が無ければ経営的に赤字の方も多く見受けられます。このような暗い一面も現実にはありますが、大変ながらも楽しく、お互いを補いあいながら農業をしているタカパン達を応援したくなりますね。